

的じゃなくて、その先に何を持ってやるかっていうのがないとね。

稲毛：まちづくりに入ってそれを言ってください(笑)。

藤田：時間がかかるんですよね。こういう場とか飲んでるときにちょっと本音でしゃべって、徐々にその人に思いを伝えていく。いきなりパンチ食らわすとそりゃもうだめ(笑)。

皆川：私たちもこの地になじむことを一番に考えて、とにかく顔出せるとこ顔出して、覚えてもらって。その土地のやり方を知ってから、意見を言うようにしています。

森川：僕は田舎のいいところも悪いところも、それを楽しめたらいいなと思います。都会では近所のおばあちゃんにこんなに野菜をもらうことないけど、ここではそれが普通の日常だからある程度コミュニケーションとれる人だといいいかな。

星川：ここに来る前、あちこち旅行に行きたいから、できればあまり人と接触しないで、自分の好きなようにしたいって思っていたんですよね。だけどやっぱり、飲み席で友だ

ちもできて、人とふれあった方が生活も楽しいし、1人でいたら長くは住めないんじゃないかな。

藤田：それぞれいろんな思いでこの地に来るけど、自分の考えをできるだけ周りの人に知ってもらわなければならないと思うんですよ。

泰希：田舎と都会の暮らしの違いはたくさんあるけど、それを楽しんでいけたらいいですよ。ブドウの作り方についても声をかけてもらって、それが時には自分と意見が違ってもあるけど、いつも気にかけてくれてありがたいし、そういう考えや知識もあるんだなあと勉強になります。

藤田：地元から出て行った人で帰ってきたっていう人もいますよ。でもずっと戻ってないから帰りにくい。そんな人に向けて、松原宇治もこんなに元気だよっていうのもっと発信したいんです。帰ってくるきっかけがうまれるかもしれない。

ソミヤ：この冊子も、そういう人たちにも届けてもらって、ああ自分たちの地元が頑張っているっていうことも知ってもらえたらいいですね。



浦田大輔さんには他日話をうかがいました。

● どうして松原に住もうと思ったのですか？

震災のときに東北にボランティアに行ったのがきっかけで、両親に会いに行ける距離に住もうと決めました。藤田さんのところで紅茶を頂き、その味と松原という土地に可能性を感じ、ここで藤田さんと一緒にお茶を作っていこうと思いました。

● 松原でのこれからの展望は？

お茶の栽培は大変な仕事ですが、興味がある人がいれば一緒にやりたい。お茶以外にも、シンプルに楽しいことを若い人たちとやりたいな！

● これから移住してくる人へのアドバイスをお願いします。

よく周りを見ながら、田舎の人たちの気持ちも考えて入ってきて欲しいかな。

● 松原の好きなおところは？

自宅です！家の真正面が谷になっていて一面に雲海が見えるんです。今(11月)は紅葉が最盛期で、朝日が映って真っ赤に染まった山と雲海が最高に美しいんです！



うらた だいすけ

浦田 大輔 さん

全国を自転車で旅していたが、高梁紅茶の藤田さんの誘いをきっかけに松原へ移住。現在高梁のお茶を絶やさぬようお茶農家として奮戦中！岡山県出身。松原1年目。